

夏のおてがみ

3年生 4年生

2024年

富田林市立図書館



たくさん^{あそ}遊んだあとは
ほん^よ本を読んでひとやすみ
き^いお気に入りの本を見つけてね

キャンピングカーのたび

みねお みつ／作
福音館書店



ぼくとお父^{とう}さんは、「のろのろ^{ごう}」で
うみ^{ほし}海のむこうの星がきれいなキャンプじょうへでかけたよ。「のろのろ^{ごう}」はちょっと小さなキャンピングカー。スピードは出ないけど、車
のなかでごはんを^た食べたり、ねむったりできるんだ。キャンプじょう
では、いろんなしゅるいのキャンピングカーがあることを知^しったよ。

ねこぜ山どうぶつ園

角野 栄子／作
よしむら めぐ／絵
金の星社



あか^{やま}赤いエプロンをつけたリリーさんは、
ねこぜ山のふもとにあるどうぶつ^{えん}園の
えんちよう^な園長さん。リリーさんはどうぶつ園の中に住んでいて、毎朝動物^すたち
に「おはようおはよう元^{げん}気ピンピン」とあいさつをします。すると動
物たちも「おはようおはよう元^{へん}気ピンピン」と返事をします。そんな
こ^{せい}せ^いゆた^た個性豊かな動物たちとリリーさんの一日を^{いちにち}のぞいてみましょう。

白い牛をおいかけて

トレイス・シーモア／文
ウェンディ・アundasン・ハルパリン／絵
三原 泉／訳
ゴ布林書房



ケンタッキーのどこかには白い牛がいる。もとはうちの牛で、にげ
てしまったからだ。わたしは、つかまえ^でに出かける父^{とう}さんたちに毎^{まい}回^{かい}
「ついていっていい？」と、たずねるけれど「すぐつかまるさ」と、こと
わられてしまう。でも、どろだらけになったり、髪^{かみ}に葉^はっぱがからまっ
たり、失敗^{しっぱい}ばかり。もう、白い牛はつかまらないのかな。

図書館のぬいぐるみかします

わたしのいるところ

シンシア・ロード／作
ステファニー・グラエギン／絵
田中 奈津子／訳
ポプラ社



わたしは人形^{にんぎよう}のアイビー。女^{おんな}の子のアンと、いつもいっしょにあ
そんでいたわ。でもアンが大きくなると、わたしははこにしまわれた。
ある日、おとなになったアンがわたしを^{おお}図書館につれて行ったの。
いちどはわすれられた人形^{おも}たちが、ブック・フレンドとして図書館
にきた子どもたちと、もういちど思い出をつくっていくおはなしです。

暗やみに能面ひっそり

佐藤 まどか／作
アン マサコ／絵
BL出版

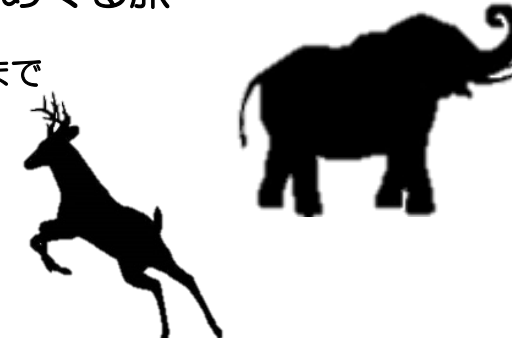


なつやす^{そう}夏休み、宗太はお母^{かあ}さんが海外出張^{かいがいしゅつちよう}の間、
きょうと^{いえ}京都にあるおじいちゃんの家へ預けられることになった。はなれの
し^{ごと}ば仕事場に行くと、そこには色^{いろ}のついていないお面^{めん}がたくさん！初め
は怖いように見えたお面も、おじいちゃんから「見る角度^{かくど}や昼間^{ひるま}と夜
では表情^{ひようじよう}が変わる」と教^{おそ}わると、ただ怖いとは感じなくなっていたの
だった。

地球のいきものをめぐる旅

北極の海から熱帯雨林まで

ジョン・ウッドワード／作
ニック・クラプトン／監修
竹田 純子／訳
河出書房新社



ちきゅう^{ばしよ}地球にはどんないきものが、どんな場所^くで暮らしているのでしょう
か。世界には14種のバイオームがあります。バイオームとは、野生^{やせい}
せいぶつ^い生物が^{かんきよう}生きている環境^{ちりてき}のことです。地理^{ばしよ}的な場所^{きこう}、気^{しよくせい}候、植生など
によって分けられています。さあ、世界中^わのいきもの^{じゆう}たちに出会^{であ}い
に行きましょう。

イヌワシつかいのエルジャン

イチンロブ・ガンバートル／文
バーサンスレン・ボロルマー／絵
津田 紀子／訳
あかつき教育図書



エルジャンのいえはだいたいイヌワシをつかって狩りをするイヌワシ使いです。ある夏の日、エルジャンはお父さんといっしょに高い岩山へイヌワシのヒナをつかまえにきました。お父さんのような立派なイヌワシ使いになるためです。イヌワシのひなにサルコスとなづけ、エルジャンのとっくんの日々がはじまります。

黒部の谷の小さな山小屋

星野 秀樹／写真・文
アリス館

富山県にある阿曾原温泉小屋は、高い山にはさまれた黒部の谷底に立っています。夏の間だけ開かれて、多くの登山客がここに泊まります。横が谷底になって、多くの登山客がここに泊まります。横が谷底になって、多くの登山客がここに泊まります。横が谷底になって、多くの登山客がここに泊まります。



調べて、くらべて、考える！

くらしの中の和と洋〈住む〉

岡部 敬史／編著
汐文社



日本と西洋では、暮らし方が違います。例えば、日本の伝統的な家は木で作られているのに対し、西洋では石で作られています。家の作りだけでなく、トイレも日本と西洋で違います。このように、普通だと思っていることが、西洋では違うことがあります。日本と西洋の違いを発見しつつ、各国の独自の文化に触れてみてください。

読み継がれてきた名作

サリーのこけももつみ

ロバート・マックロスキー／文・絵
石井 桃子／訳
岩波書店 2001年



アメリカでは1948年、日本では1986年にこの本は出版されました。長い間親しまれてきたおはなしなので、読んだこと、読んでもらったことがある絵本かもしれません。小さなサリーがこけももをつみながらお母さんの後をついていきます。山の反対がわからず、熊の親子がこけももを食べながらのぼってきます。二組の親子はどんな出会いをするのでしょうか。

宿場町の日

いわた 慎二郎／さく・え
講談社



江戸時代は、日本で旅が初めて盛んになった時代です。今の温泉街のように、旅館が集まった場所を「宿場町」と言います。今のように電車や車がない時代なので、みんな自分で歩いて旅をしました。宿場町の様子や、当時の人達がどんな服装で旅をしていたのかが絵で良く分かる一冊です。

夏の小川にかがやく宝石、オニヤンマ

日本でいちばん大きなトンボのくらし

筒井 学／著
小学館



オニヤンマは日本で一番大きなトンボです。エメラルドグリーン of 眼と、黄色と黒のしまもようの体がかっこいいですね。梅雨が終わったところからきれいな小川と林のある里で見ることができます。卵から生まれるところや、幼虫期の脱皮の様子、成長したヤゴが羽化する場面など、写真で細かく知ることができます。

リパとみつばちの庭

福井 さとこ／作・絵
のら書店



リパは庭師をしています。そんなリパの道具箱にみつばちがすみつきました。ある日、さくのむこうから男の子が「そのみつばちは、うちのみつばちだったんだよ！」とさけびました。その言葉が気になったリパが男の子の後を追いかけると、そこにはみつばちの巣箱がある小さな家が。かわいいいラストとともにみつばちの生態がわかる物語です。